

小学校 道徳教育経営案

1 学校教育目標

よりよい未来に向けて主体的に社会に参画する人間の育成

2 研究主題

思いやりの心を持ち、自分の考えを進んで表現できる児童の育成

3 教科等の目標

道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づいて制定されており、民主的で文化的な国家を建設し世界の平和と人類の福祉に貢献する国民の育成を目指す、我が国の教育のあり方を示したものであり、そのことを実現するのが道徳教育である。

道徳教育の目標は、学校におけるぜんたい的な道徳教育の目標であり各教科や特別活動及び総合的な学習の時間などの指導を通じて行う道徳教育も、道徳教育の要としての道徳の指導も、常にこの目標を目ざして行われる。

教育全体の目標にも通じるものであるため、固有の目標として「その基盤としての道徳性を養うこととする」とし、道徳教育の役割が「道徳性の育成」にあることとする。

4 経営方針

- (1) 本校の教育目標『自ら学ぶ意欲を持ち豊かな心でたくましく生きる子どもの育成』を具体化するにあたって全教育活動を通じて行う。
- (2) 学校重点目標にかかわる内容については、総合単元的に構想し、指導の重点化を図り、効果的な指導に努める。
- (3) 道徳の時間の指導においては、児童の興味や関心を持つ教材を開発したり、一人ひとりの思いや願いに耳と心を傾け、共に語り合う授業を構成する。
- (4) 家庭とも連携を密にする。道徳授業の公開や学級通信等で一人ひとりの良さを知らせるようにする。

5 重点目標

- (1) 学級の係活動を個を生かす視点から充実させ、さらに道徳の時間の指導とも関連を図るようにする。
- (2) 学び方の指導に力点を置き、一人ひとりの思いや願いに耳と心を傾け、本音で語り合える授業を構想する。そのためには、個を生かせるような指導法を工夫する。